

Encourage & Company

皆さんこんにちは。
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

第1回目は「牛耳る」という言葉についてお話しました。

第2回目は「鳴かず飛ばず」。

第3回目は「司馬懿仲達」について。

第4回目は「我れ鳥獣にあらず」。

今回第5回目は、いきなり書き綴って行こうと思います。

問：あなたは戦国時代の将軍で、敵の城を短期間で占領しなければいけません。
なぜなら敵は城門を固く閉ざし大援軍を待っており、援軍が来てからでは勝ち目がないからです。

あなたはどうやって城を占領しますか？

(どうぞ問に答えて読み進めてください)

麻雀の役の1つ国士無双の語源は、秦のあとに中国統一をした漢の国の大將軍韓信のことです。

「国にその者と肩を並べる者がいない最高に優れた士」というのが直訳になると思います。

私の知っている将軍の中では国士無双の名の通り、韓信はブッチギリにダントツ1番すごい将軍です。

冒頭の問は、いつか前職のビジネスコンテストで引合に出した時のものです。

ロジカルシンキングする人の答えはこんな感じ、しかしラテラルシンキングする人の答えはこうですみたいに。

韓信は造作もなくその敵城を占領しました.....こうやって(ラテラルシンキングをして)。

答え：敵が待ち焦がれたその援軍に化けて、いとも簡単に城門を開けさせ、城になだれ込み占領する。

Encourage & Company

ちなみにロジカルシンキングでは東西南北の城門を警備している兵士の数だとか、ランチェスターだとかをキーワードに話が展開すると思います。

劉邦は韓信なくして中国統一はできなかったという考え方が大勢です。しかし、統一後の国土無双韓信はどうなったでしょうか。

「狡兔死して走狗煮らる」という故事成語が第5回目のテーマです。

ウサギ狩り用の猟犬は、山からウサギがいなくなったら煮て食べられてしまうという意味です。

つまり用があるときには重宝されるが、用がなくなれば惜しげもなく捨てられてしまうという教訓です。

劉邦は中国統一後、韓信の処遇に大変困りました。なぜなら中国最強の将軍ですが、敵国がないからです。

更に韓信に謀反を起こされれば確実に殺られます。韓信はイメージで言うと諸葛亮孔明が馬に乗り槍を持った趙雲のような将軍です。

困った結果劉邦は山からウサギがいなくなったので猟犬を暗殺しました。

まともに戦えば確実に殺られるので、韓信の気が緩む場所に連れだし暗殺しました。

私は中国最強の将軍がこんな形で絶命することに、あっけなさを感じました。

そして教訓として、もし韓信が戦争のない世界で例えば政治のプロフェッショナルという別の能力があり発揮できれば、こんなにあっけない死に方はしなかつたらうと思いましたが。時代の変化について行けなければ、どんなに強くてもあっけなく死ぬという教訓が残りました。

みなさんの仕事場でも国土無双の死に方から自分に当てはめて何かひらめくことがあるかもしれません。

堀 洋三